

俳句と短歌

- ・初春や 百年前のピアノ弾く
- ・藤咲きて 大船観音笑ってる
- ・中央線 新緑の中ひた走る
- ・父母と 旅に出たのは 一度だけ
三田に任んてた 母の叔母訪ね
- ・父母と 旅をしたのは ただ 一度
災害前の 神戸ホテル
- ・四月きて 父が挿し木のバラの花
ピンクの大輪 花開きけり
- ・大船の 観音様に 願うのは
世界平和と 国のしあわせ
- ・中央線 トンネルの鼓 いくつかな
昔は煙 窓から 入った
- ・表笛を 吹きし 昔を 思い出す
曾祖母居て 八人家族
- ・安舞う 友と 過ごしたあの夏は
五十数年前の 思い出



すずらん会バージョン

作詞 青木 宏太郎
補作詞 稲垣 明男
作曲 高杉 康樹

そのなやみ

話しませんか ここに来て
仲間がいるよ すずらん会
話せば心 晴やかに

その涙

拭きましようよ ここなら
仲間がいるよ すずらん会
泣きたい気持ち 消えますよ

聞きましよう

嬉しい話題 持ち寄って
仲間がとあえる すずらん会
心のうちを 見せ合おう

手をつなぎ

歌いませんか 笑いあい
みんなで歌おう すずらん会
明るく強く 生きぬこう

*森山良子の『この広い野原いっぱい』のメロディーでも歌えます。

「家族会の歌」について

「すずらん会の歌」はすずらん会会員青木宏太郎氏が作詞（稲垣明男氏補作）し、会員の義妹の長男高杉康樹氏が作曲しました。

替え歌で森山良子の「この広い野原いっぱい」でもピッタリと歌えます。

みなみ会やわかば会ではとても気に入って、会の始まる前にわかば会バージョン、みなみ会バージョンにかえて歌っているそうです。

歌詞入りの楽譜が事務局にあります。

「私の単会でも歌ってみよう」と思われる単会さんがありましたら事務局へお知らせください。

楽譜を差し上げます



「徹底検証！障害者総合支援法」 （放送に入りきらなかった“大切な話”）

4月4日、夜8時放送の「徹底検証！総合支援法」
ご出演いただいたのは障害当事者の視点で、新法制定
の検討会議に携わった茨木尚子さん、（明治学院大学教
授）

来年4月から施行される「重度訪問介護」について、放送
では紹介しきれなかったポイントとなるお話をもう少し、ご
紹介させていただきます。

重度の肢体不自由者に対して、身体介護や家事援助だ
けではなく、長時間にわたって提供する「重度訪問介護」
それが来年4月から、知的・精神障害者に拡大されるとい
うことで注目を集めています。

番組でもお話ししましたが、問題となっているのはその「対
象」です。国は現在、「行動援護」のサービスを基準に検
討するとしています。

茨木「“行動援護”を基準に考えるという事なのですが、全
くイコールとなってくると、非常に限られた人しか重度
訪問介護の対象にならなくなってしまう可能性があり
ます」

「行動援護」の対象者は、行動上著しい困難を有す
る知的・精神障害者。行動に関する12の調査項目のう
ち、8点以上（24点中）にあてはまるのが条件です。例え
ば、「他人に突然抱きついたり、断りもなく物を持ってくる
こと」が「ほぼ毎日ある」と2点、「叩いたり蹴ったり器物を壊
したりなどの行為が」「ほぼ毎日ある」とさらに2点、こうした
点数が複数組み合わせられることで、8点という計算になりま
す。

問題行動を起きないようにするために、周囲の支えが
必要であるにもかかわらず、実際に起きている人しか
対象とならない、というのは本末転倒ではないか？

茨木さんは、状態が重くなってからでないという制度
が利用できないという矛盾を指摘されました。

茨木「問題行動って何故おこってくるのかというところ
を探ることが大事で、それを止めるために重度
介護訪問を使うこともあると思うのですが、その
問題行動がないと重度とみなされず使えないと
いうのは、その人の状態が悪くなってからしか使
えないという矛盾したことになってしまいます」

「重度訪問介護」の対象拡大は来年4月から。
厚労省も今年1年をかけて準備を進めていく予定で
す。

茨木さんは、どんな人がこのサービスを必要としてい
るのか、地域から提言を続けていくことが大切だと考
えています。

茨木「こういう人たちが使えと、“本当に地域支援
の厚みが増すよね”ということを地域の皆さんか
ら発信していくことで、行動援護の対象基準の幅
が広がっていく可能性は、まだまだあるのではな
いかと思っています」

当事者や社会1人1人
の声が、今後の施行内
容に関わってくる可能
性もあります。私たちも、
今後、引き続き注意
して動向を見守ってい
きたいと思います。



【放送】2013年4月4日放送

20時00分から20時29分Eテレ

・番組ディレクターのインターネット投稿記事から・

【ゲシュタルト主義とは】

ヴェルトハイマー（1880～1943）というドイツの心理学者が唱えた考え方。

「ゲシュタルト」とは《形態・姿などの意》で知覚現象や認識活動を説明する概念で部分の総和としてとらえられない合体構造に備わっている、特有の全体的構造をいう。分かりやすい身近な例でいうと、新聞や雑誌などのモノクロページの写真は細かく見ると、濃淡さまざまなドット（点）の集合のように見えますが、私たちはそれをドットとしてではなくひとつの写真として認識します。

それをゲシュタルト的に認識するといいます。

ゲシュタルト主義は「全体は部分の総和以上のものである」とする考え方。